

中世



千葉開府900年記念
令和8年度特別展



千葉まち アンソロジー

千葉氏がつくったまちの

900年

古代から陸と海を結び、人とモノが行き交うこのまちは、
都市として発展の道をあゆみました。
千葉まちの歴史を、近年発見された
新たな資料などからたどっていきます。

近現代



近世



開催期間／令和8年**10月10日**土～**12月6日**日



千葉市立郷土博物館
CHIBA CITY FOLK MUSEUM

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-6-1
TEL.043-222-8231 FAX. 043-225-7106
E-mail: kyodo.EDL@city.chiba.lg.jp

開館時間／9:00～17:00

(入館は16:30まで)

休館日の案内／月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)

【交通案内】◎JR千葉駅下車、東口バス乗り場7番から、京成バス「千葉大学病院」行き・「南矢作」行きで
「郷土博物館・千葉県文化会館」下車、徒歩3分
◎千葉都市モノレール「県庁前駅」下車、徒歩13分 ◎JR本千葉駅下車、徒歩15分
◎京成千葉中央駅下車、徒歩20分

入館料
無料

詳しくはこちら



千葉開府900年記念 令和8年度特別展

千葉まちアンソロジー

千葉氏がつくったまちの900年

「千葉開府900年」という大きな節目を迎える令和8年(2026年)は、千葉のまちの歴史を見つめ直し、未来の千葉市を考えるまたとない機会です。

千葉のまちは、平安時代末期に千葉氏が本拠を構えたことを契機に発展してきました。本展では「千葉氏によってつくられた千葉まち900年のあゆみ」をテーマに、古代から中世、近世、近現代まで、常設展と異なる各時代の資料を通して、その歴史をたどり深めます。

900年という長い歴史は、その前史を含めて時代ごとにこのまちに生き、支えてきた千葉氏をはじめとする、人々の営みが積み重なってきたことの、証に他なりません。本展が、千葉のまちの歩みを知り、郷土への愛着を深めるとともに、まちの未来を考えるきっかけとなれば幸いです。



猪鼻城跡出土古代円面硯
千葉市埋蔵文化財調査センター蔵



院内遺跡出土中世瓦
千葉市埋蔵文化財調査センター蔵



木造十王坐像(閻魔王) 高德寺蔵



際物問屋 伊勢源本店 印半纏
当館蔵



下総国千葉郡寒川村指出帳
個人蔵 当館寄託



絵ハガキ 栄町通り商店街 当館蔵



絵ハガキ 市庁舎前での妙見大祭 当館蔵



葛飾北斎 富嶽三十六景「登戸浦」 当館蔵



大舟の飾り幕 寒川神社蔵 当館寄託

歴史講座

千葉まちアンソロジー — 千葉氏がつくったまちの900年 —

【日時】11月28日(土) 13:00~16:00

【会場】千葉経済大学2号館大講義室(2-101教室)

【演題及び講師】演題：東京湾の水上交通からみた中世の千葉まち

講師：遠山 成一氏(千葉経済大学講師)

演題：千葉・北総を巡る近代交通の展開

講師：高木 晋一郎氏(白梅学園大学講師)

【募集定員】200人(応募多数の場合抽選)

11月1日から11月13日(金)までに電子申請が往復はがきで申し込み

